

76億の目撃者たち

# 世界報道写真展

## 2019

6.8 SAT - 8.4 SUN



世界報道写真大賞 スポットニュースの部 単写真1位 ジョン・ムーア(アメリカ、ゲッティイメージズ)

2018年6月12日、メキシコとの国境沿いにあるアメリカ・テキサス州マッカレンで、ホンジュラスからともに来た母親のサンドラ・サンチェスが国境監視員の取り調べを受けている間、泣き叫ぶヤネラ

開館時間：10:00～18:00(木・金は20:00まで 但し7月18・19・25・26日 8月1・2日は21:00まで)入館は閉館の30分前まで

休館日：毎週月曜日(但し7月15日[月]祝開館、翌16日[火]休館)

観覧料：一般800(640)円／学生600(480)円／中高生・65歳以上400(320)円

・小学生以下、都内在住、在学の中学生および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料。

・第3水曜日は65歳以上無料。※( )は20名以上の団体料金

# TOP MUSEUM

地下1階  
展示室

主催：世界報道写真財団、朝日新聞社 共催：東京都写真美術館

後援：オランダ王国大使館、公益社団法人日本写真協会、公益社団法人日本写真家協会、全日本写真連盟

協賛：キヤノンマーケティングジャパン株式会社、ゲッティイメージズジャパン株式会社

協力：特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 お問い合わせ：東京都写真美術館 TEL.03-3280-0099

【公式HP】 <http://www.asahi.com/event/wpph/>

世界報道写真展 2019

【公式Twitter】世界報道写真展 (@wppjapan)

Canon

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

NATIONALEN  
POSTCODE  
LOTTERIJ

世界報道写真財団の  
ワールドポスターは  
オランダ郵便番号で送ります

# 世界報道写真展

2019

76億の目撃者たち

世界報道写真コンテストの受賞作を紹介する「世界報道写真展2019」。62回目を迎える今回のコンテストには、129の国と地域から4,738人のフォトグラファーが参加し、78,801点の応募がありました。

今年は、「現代社会の問題」、「一般ニュース」、「長期取材」、「自然」、「環境」、「スポーツ」、

「スポットニュース」、そして昨年の「人々」にかわり「ポートレート」の部の8部門において、25カ国43人が受賞しました。また新たに、複数の写真で様々な事象を表現した作品を評価する「世界報道写真ストーリー大賞」が設けられ、報道写真の表現が広がりを見せています。

「スポットニュース」の部では、ジョン・ムーアがメキシコとアメリカの国境で、母親の取り調べ中に泣き叫ぶホンジュラスの少女を捉えました。また「一般ニュース」の部では、サウジアラビアのカシヨギ記者が行方不明になった事件で、サウジの総領事館に押し寄せる報道陣の姿を写しています。ほかにも、シリアで続く内戦やコロンビア革命軍の元女性兵士の暮らし、オランダ領キュラソーのベニロフラミンゴを捉えた作品など、地球上で「いま」起きていることを伝える写真の数々を紹介します。



- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ①

① スポットニュースの部 組写真2位

モハメド・バドラ (シリア, EPA通信)  
2018年2月25日、毒ガス使用が疑われるシフォニエの村への攻撃で負傷し、治療を受ける人々。

② 現代社会の問題の部 組写真2位

カタリナ・マーティン・チコ (フランス/スペイン, パノス)  
ヨルラディスは、コロンビア革命軍(FARC)に加わっていた間の5回に及ぶ墮胎を経て、6回目の妊娠を果たした。5回目の妊娠の時は、緩めの衣服を着て妊娠6か月になるまで指揮官に知られないようにしていたという。

③ 環境の部 単写真1位

ブレント・スタートン (南アフリカ, ゲッティイメージズ)  
ジンバブエのフンドゥトゥ野生動物公園で、女性メンバーだけで構成される反盗漁武装部隊「アカシガ」の偽装・隠蔽対策訓練に参加するベトロネラ・チグムラ(30)。

④ 自然の部 単写真2位

ヤスパー・ドゥースト (オランダ)  
オランダ領キュラソーのFDOC(カリブ動物と教育財団)で、足の重度の障害を治すのに役立つ急ごしらえの靴下を履き、確認しているベニロフラミンゴ。

⑤ スポーツの部 組写真2位

マイケル・ハンク (チェコ)  
チェコ共和国のバライスホッケー代表チームのキャプテンで、これまでパラリンピックに3大会出場しているズデニェク・サフラネクが、ジムで懸垂している。

⑥ 世界報道写真ストーリー大賞 スポットニュースの部 組写真1位

ピーター・テン・ホーベン (オランダ/スウェーデン, アジャンス・ウ/シビリアン・アクト)  
2018年10月30日メキシコ南部のタバタベク郊外で、移民を載せるために停車したトラックに駆け寄る人々。途中までの乗車に代金を請求する運転手の中にはいたが、大半は支援の印として無償で乗せた。

EVENT

## フォトドキュメンタリー・ワークショップ

講師: Q. サカマキ 7月13日(土)~15日(月)・(祝)3日間連続/定員: 20名  
(写真家、「世界報道写真展2007」受賞者) 事前申込制/参加費: ¥20,000  
外山俊樹(朝日新聞社映像報道部) 会場: 東京都写真美術館 1階スタジオ

東京都写真美術館は、21世紀のフォトドキュメンタリー/フォトジャーナリズムについて実践的な方法を考えるワークショップを開催いたします。フォトドキュメンタリーの最前線で活躍する講師を迎え、レクチャー、ポートフォリオ・レビュー、ウィック・ヒット・エッセイ制作を3日間で行います。国内では数少ないフォトドキュメンタリー/フォトジャーナリズムの現場を学べるプログラムです。

主催: 東京都写真美術館 共催: 朝日新聞社

※詳細は東京都写真美術館ホームページ <http://www.topmuseum.jp> をご確認ください。

## いとうせいこう X 国境なき医師団 ~人道危機の現場で、人々に寄り添うこと~

7月27日(土) 14:30~16:00 (14:00 受付開始)

会場: 東京都写真美術館ホール/定員190名 事前申込制 参加費: 聴講無料

※世界報道写真展2019の展覧会チケットが必要ですが(当日以外の半券でも可)  
※応募締め切り: 7月4日(木) ※応募者多数の場合は抽選とさせていただきます

国際的な医療人道援助団体の国境なき医師団が、人道危機の現場取材を続ける作家・クリエイターのいとうせいこう氏を迎え、海外派遣スタッフとともにスライド・トークを開催します。

主催: 朝日新聞社、国境なき医師団日本

※お申し込みWebサイト <https://www.msf.or.jp/wpph2019/>  
※お問い合わせ [event@tokyo.msf.org](mailto:event@tokyo.msf.org)

至 渋谷 JR恵比寿駅 日比谷線恵比寿駅 1番出口  
東口 動く通路 恵比寿ガーデンプレイス  
TOP MUSEUM

153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内  
TEL 03-3280-0099 [www.topmuseum.jp](http://www.topmuseum.jp)  
JR恵比寿駅東口より徒歩約7分、  
東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分  
当館には専用の駐車場はございません。  
お車でご来場の際は近隣の有料駐車場をご利用ください。

東京都写真美術館  
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM